



はとの子だより

No. 11 令和5年1月31日(火)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

静粛と傾聴が自然と生まれる感性の育ち



2学期の終業式と3学期の始業式は、どちらも全校児童と教職員がアリーナに集まって実施しました。避難訓練を除けば、儀式的な行事で全校の仲間が一堂に会するのを見るのは、2学期の終業式が初めてでした。数年前であれば当たり前であった景観が、このときばかりは壮観に思えました。

ただ、心を打たれたことは、そのことだけではありませんでした。

久しぶりの全校での集合です。整列が困難だったり、興奮からざわつきが目立ったり、ということなどを半ば覚悟しておりました。ところが、2つの儀式的行事は、終始、静粛と傾聴に貫かれていたのです。

「前ならえ」はせずに迅速に整列することの大切さについては、主体性の伸長と安全の確保の観点から全校で徹底していましたが、この日も当たり前のようにできている学級がほとんどでした。若干の微調整も臨機応変かつ静粛に対応できました。

私語も全く気にならない程度で、面白い話題にわずかに場内が沸く場面は数回ありましたが、あっという間に切り替わります。特に代表児童の発表に対しては、聞いている子どもたちのまなざしが違いました。話の内容に食い入るようなまなざしでした。

担任の先生たちが事前に教室で丁寧な指導をしていたことは、要因のひとつであったはずですが、それ以上に、全員がひとつところに集まったことの重大さを、子どもたち自身が感じ入ったのではないかと思います。そのような子どもたちの感性が育っていることに、改めて心を打たれた2つの行事でした。

児童代表で発表を頑張りました

< 2 学期終業式 >



1年B組 ○○○○さん
はとの子発表会の歌は、歌詞の意味を考えて気持ちを込めて歌いました。



3年B組 ○○○○さん
はとの子運動会では、手のひらが赤くなるくらい手をたたいて応援しました。



5年C組 ○○○○さん
誰かがどうにかしてくれるのを待つのではなく、自分から動けるようになりたいです。

< 3 学期始業式 >



2年B組 ○○○○さん
友達の考えに、他の学習に、生活に「つなげる」ことを頑張りたいです。



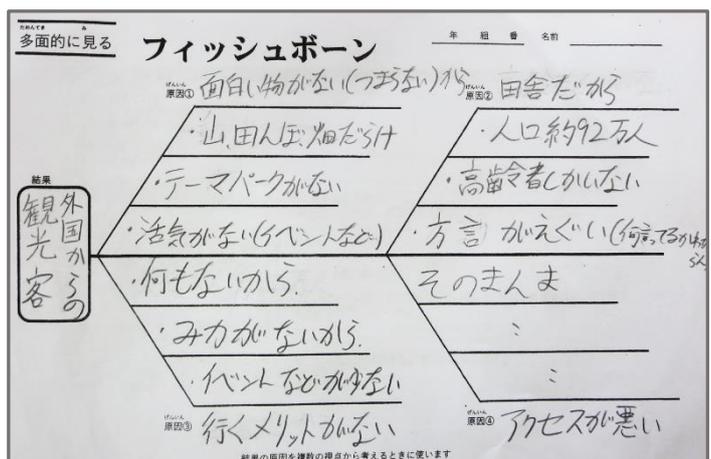
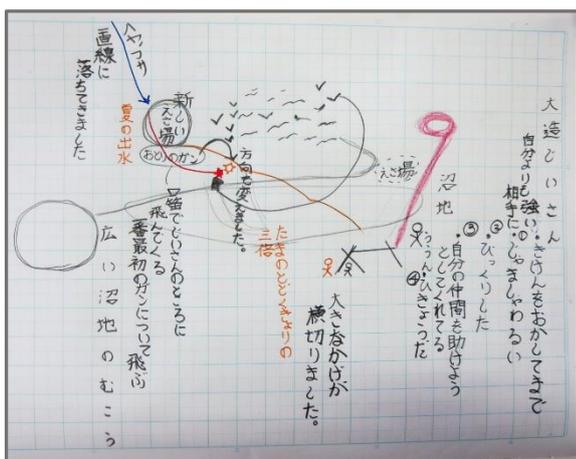
4年C組 ○○○○さん
冬休みに学んだ吉田松陰のように「志」をもち、逃げずに生きたいと思いました。



6年C組 ○○○○さん
学習の総復習とコミュニケーションを大切にして悔いの残らないようにしたいです。

どの発表からも、学校や家庭での生活と自分自身をよく見つめ、今日よりも明日の自分をどのように高めていこうかと考える姿勢が伝わってきました。発表を通して、この姿勢が全校のみんなに伝わったのではないのでしょうか。

考えるための技法を育む



上の写真は、5年生のノートと6年生のワークシートです。授業の様子を見ながら、それぞれの紙面にとってもよく考えた足跡が残されていることに感心しました。

左のノートは、物語の登場人物が行動した足跡を叙述に即して図解しながら、登場人物の心情について理解を深めています。右のワークシートは、秋田の魅力を発信するための手がかりを探ろうと、フィッシュボーンという思考ツールで多面的に考察を加えています。「考えるための技法」と呼ばれるこれらの手立てが、子どもたちの思考力や思慮深さを高めていることがよく分かります。